

登録コード	FSJ03500	開講年度	2026			
授業題目	保全環境学特論				担当教員	森脇 洋
英文授業名	Topics in Environment Conservation				副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限	対象学生
講義室	繊維2 9番講義室		授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】				⇔	【授業の達成目標】
	26FS加・繊維学					
	【専攻】基礎科学に関連する総合的な自然科学分野の普遍的基礎学力，さらにそれを発展的に応用できる能力				⇔	基礎科学に関連する総合的な自然科学分野の普遍的基礎学力，さらにそれを発展的に応用できる能力
	【専攻】専門分野における深い学識に基づく，卓越した実践的技術力および研究能力				⇔	専門分野における深い学識に基づく，卓越した実践的技術力および研究能力
(2)授業の概要	環境化学の考え方、環境化学のための応用的な技術について概説するとともに最新の環境化学にまつわる研究成果を紹介する。受講者は最新の環境研究および環境問題の現在について学習することができ、そのことを通じて、環境の実際について議論・考察できる力を有するようになることが本講義の目的である。 担当教員は環境研究所で10年間の実務経験があり、こうした環境の現場で働いた経験についても講義に盛り込む。					
(3)授業計画	授業は90分で行います。 1. 環境化学とは？ 抗菌剤・抗生物質 2. 身近にある環境問題(1) プラスティック 3. 身近にある環境問題(2) POPs 4. ゴミに関する環境問題(1) 不法投棄 5. ゴミに関する環境問題(2) ゴミに含まれる環境汚染物質 6. 大気に関わる環境問題(1) 塵 7. 大気に関わる環境問題(2) PM2.5 8. 水に関わる環境問題(1) 富栄養化・水質 9. 水に関わる環境問題(2) 浄化手法 10. 環境問題との付き合い方(1) 毒性評価法 11. 環境問題との付き合い方(2) リスク評価 12. メディアの中の環境問題(1) 映画に描かれる環境問題 13. メディアの中の環境問題(2) 情報としての環境問題 14. 環境分析の新しい手法(1) LC/MS 15. 環境分析の新しい手法(2) 最新の環境分析報告例 上記に記載した内容を講義する。					
(4)成績評価の方法	種々の環境問題にかかわる考察をレポートとして講義ごとに提出を課す。 学生に対する評価 各講義ごとに出すレポート 50%、全体を通して最後に科すレポート 50% 得点率による評価基準は次の通りとする。 90%以上 秀、 89－80%優、 79－70% 良、69－60% 可、59%以下 不可。					
(5)成績評価の基準	レポートの内容から 環境保全について基礎的な事項を理解していれば可とし、 理解度の深さ、有用な意見やアイデアなどが記載されていれば その内容の充実度にしたがって、採点を行う。					
(6)事前事後学習の内容						
(7)履修上の注意						
(8)質問,相談への対応	講義終了後、直接か moriwaki@shinshu-u.ac.jpまで電子メールで質問すること。					
(9)授業の形式	最新の環境研究などを口頭で講義する。なお、コロナ感染状況も鑑みて、オンラインによる講義あるいは、オンデマンドによる講義とすることもある。					
(10)学生へのメッセージ	講義を通じて、現在の環境をめぐる問題は何なのか、深く考える力を持てるようになってほしい。					
【教科書】	特に指定しない。					
【参考書】	特に指定しない。					